

チームオレンジ ～ このまちで自分らしく生きていく ～



1.基本情報(令和7年12月現在)

市・町名	平戸市		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
27,166人	11,772人	43.33%	235.12km ²

2.チームの概要

チーム名	チームオレンジ平戸		
開始時期	令和7年度 ～		
実施主体	☒ 市町 ☒ 地域包括支援センター ☒ 住民・ボランティア ☒ 社会福祉協議会 ☒ その他 (圏域まちづくり運営協議会)		
チームオレンジ コーディネーターの属性	平戸市地域包括支援センター		
メンバー構成	チーム員:北部(田助36名)・度島(25名)・中部(43名)・南部(52名)・生月(48名)・田平(85名)・大島(25名)		
活動頻度	毎週から		
チームオレンジの類型	☒ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☒ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☒ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他		
チームオレンジ三つの基本について	☒ 3つの基本を満たしている ☐ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	☐ 市町からの委託 ☐ 市町からの補助 ☐ 会費・参加費 ☐ その他 () ※上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☒ 地域支援事業交付金 ☐ その他 (平戸市高齢者地域ふれあい事業補助金)		

3.チームオレンジの設置に至ったプロセス

本市は7圏域に110以上の通いの場があり、毎週1回以上各公民館等でよかよか体操を行い、介護予防に取り組んでいる。体操後に交流をしている団体も多く、地域の交流の場ともなっている。通いの場設立から10年以上経過し、認知症に限らず、地域で見守り・声かけ・話し相手などが行われている。超高齢化の本市にとって、通いの場を拠点にチームオレンジを構築していきたいと考える。令和7年度は各圏域毎に通いの場のメンバー等に周知し、ステップアップ研修を開催した。(講師:県オレンジチューター)

4.活動内容

毎週1回以上通いの場の活動ほか

5.活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

各圏域の状況に合わせ、ステップアップ研修を行い、周知を行った。各圏域まちづくり運営協議会や社会福祉協議会、民生児童委員には周知の徹底を図った。参加者全員にチームオレンジバッチを配布し、チーム員としての認識を図った。



6.ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和7年7月～令和8年2月の期間に各7圏域でステップアップ講座を開催。講師は県オレンジチューター(講座内容:チームオレンジとは、新しい認知症観、認知症の方への接し方など)度島地区は認知症地域支援推進員が講師。

7.活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

今後活動予定

8.チームのアピールポイント

既存の団体であるため、繋がりのある認知症サポーターが地域で存在することが、活動の継続や安心感にも繋がる。

9.今後の活動について

チームオレンジを圏域から、通いの場毎にチームオレンジの結成を提案していく。また、通いの場毎の「オレンジカフェ」を世代を超えた住民で行える体制づくりを目指している。また、地域包括支援センターと通いの場の代表と連携を行うことで関係性づくりに努め、活動の活性化を図るとともに早期相談体制を図る。

